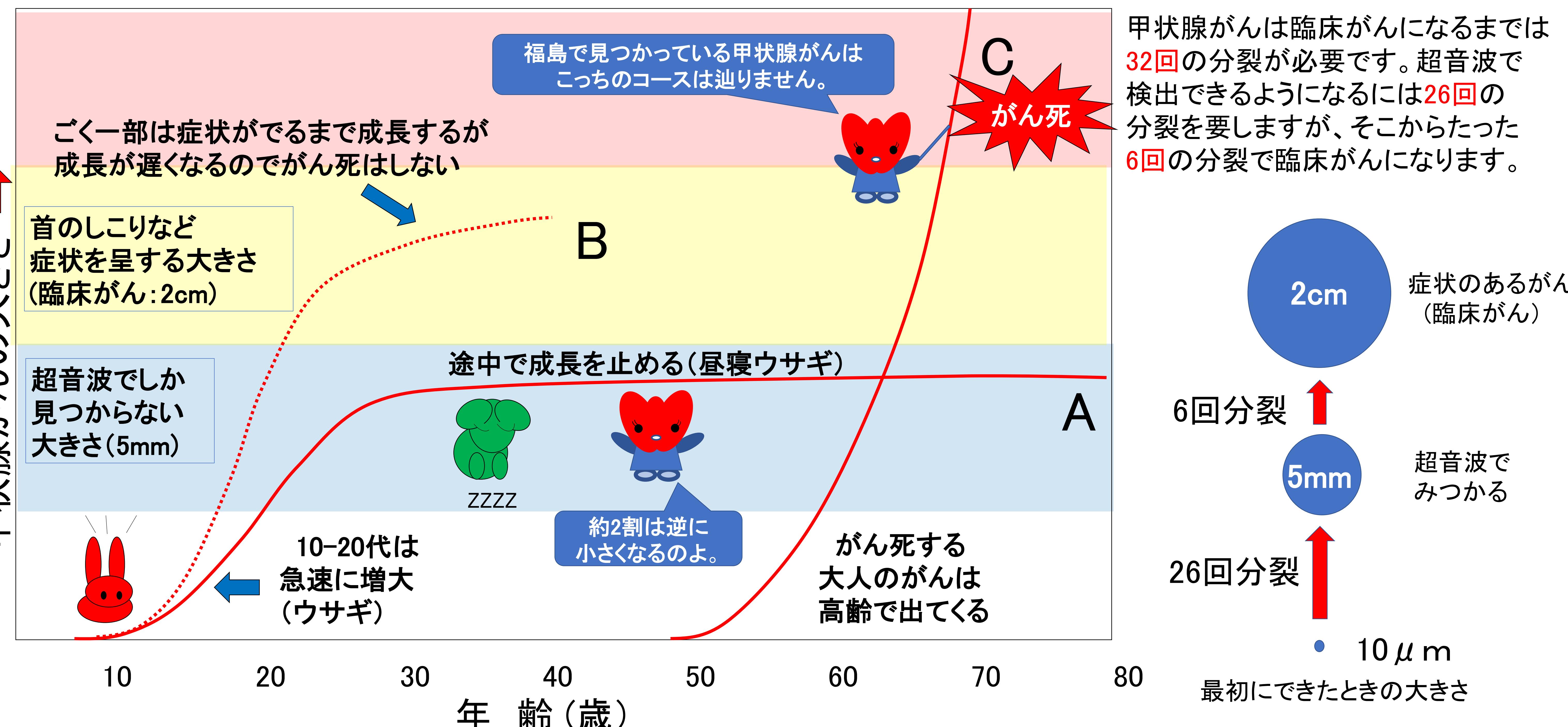


若年者の甲状腺がんの成長のしかた (甲状腺がんの自然史)

子どもや若者の甲状腺がん(若年型甲状腺がん A, B)は
中高年で発生するもの(C)とは全く性質が違います

- 最初は比較的速度で成長しますが、30歳以降は成長が止まる傾向があります。このような特徴的な成長をすることから、イソップ童話のウサギとカメになぞらえて「昼寝ウサギ型のがん」と呼ばれています。
- 転移や浸潤は高い頻度で起こりますが、転移先で成長を止めるので患者を殺すことはめったにありません。
- 超音波でしか見つからない甲状腺がんの大部分は小さいままで留まり、一生悪さをしません(Aのコース)。現在福島で見つかっている甲状腺がんもほとんどがそのような経過をたどると予測されます。

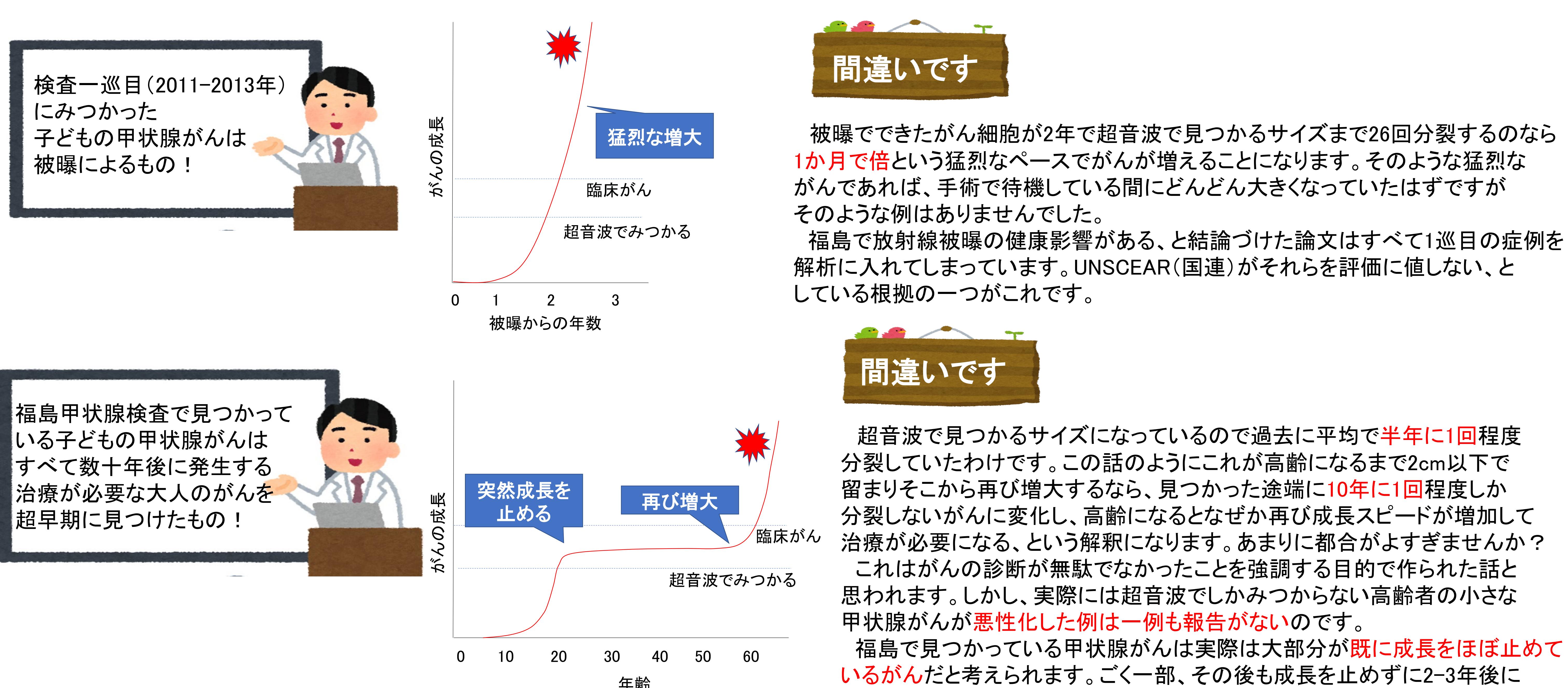


よく語られる誤った説明について

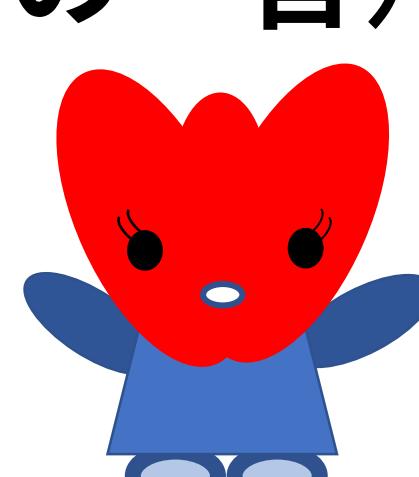
がん細胞は最初のウサギの期間(10代-20代)は右の指数関数で増えます。それを考えると福島の甲状腺がんについてよく言われている下の解釈は間違いであることがわかります。

$$(がん細胞の数) = 2^{a/b}$$

a:最初の発生からの時間 b:1回の分裂に要する時間



(まもるの一言)



ここに記載した情報は世界保健機構(WHO)の白書などにも掲載されている**国際的なコンセンサス**です。しかし、
国内では「原発事故の被害を大きく見せたい」「甲状腺検査に伴う健康被害(過剰診断)を認めたくない」等の
政治的思惑から、科学的に誤った情報を広めている専門家も存在します。福島で見つかった甲状腺がんのことを
正しく知るために**検査に利害関係のない専門家の見解**を聞くことが大事です。

* 若年型甲状腺癌研究会(JCJTC)は福島甲状腺検査に利害関係を有しない国内外の専門家が参加しています。